

# くらしお

令和5年5月臨時会  
令和5年6月定例会



## 議会だより No.69

ケーブルテレビでは、議会の生放送・再放送に加え、議会の紹介コーナーもあります。



3 P 一般会計補正予算 1億円余追加 コロナや脱炭素事業に  
8 P 町政を問う! 11議員が一般質問を  
裏表紙 地域のこえ広場 (新シリーズ)

親子そろっての砂遊びを (令和5年6月17日、入野の浜)

# 議長・副議長就任のご挨拶



黒潮町議会議長  
なかじま いちろう  
中島 一郎



黒潮町議会副議長  
やの よりおのぶ  
矢野 依伸

住民の皆様には平素より議会に対して、ご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

私達は、5月9日の臨時会において議員各位の推挙を受け、正・副議長に就任いたしました。

歴代の議長・副議長がしっかりと築いてこられた後を引き継ぐということで、責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

4月の統一地方選・市町村議会議員選挙では、全国的に議員のなり手不足が報道されるなか、私たちの町でも残念ながら定数割れという結果となりました。

このことは、地方自治の根幹に関わることでありますので真摯に受けとめ、議会組織による調査・研究を行い、議会の存

在意義を高めることに努めてまいります。

また、5月の新型コロナウイルス類移行に伴い、コロナ禍への対応は大きく転換いたしました。筋、物価高騰対策をはじめとして、喫緊の課題である人口減少・高齢化対策、自然災害への防災対策、環境エネルギー問題などについても、行政と危機感を共有することで課題解決に向け取り組みます。

そのためにも住民の皆様からの幅広い声を聴き、微力ではありますが、期待と信頼を得られるよう円滑な議会運営並びに活動に努めますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## ～議会運営をリードする～ 議会運営委員会を紹介します

◎委員長 ○副委員長



澳本哲也 矢野依伸 濱村美香  
宮地葉子 ◎山本久夫 ○浅野修一

# 令和5年 6月定例会

6月9日から16日まで開催。  
令和5年度一般会計補正予算、条例の一部改正や廃止などの7議案が提出され、全議案が可決された。  
また、一般質問では11議員が町政への質問・提案をした。



佐賀中学校2年生の皆さんが議会を傍聴（6月14日）

## 目次

- 2P 正・副議長  
就任のご挨拶
  - 3P 一般会計補正  
1億500万円追加  
コロナや脱炭素事業に
  - 4P 脱炭素先行地域の  
採択をうけて
  - 5P 委員会のうごき  
・国庫支出金の対象に  
基金繰入金を削減  
・住民税非課税世帯へ  
3万円の支援金
  - 6P コロナ対応で  
低所得子育て世帯に支援
  - 7P 常任委員会  
新体制でスタート
  - 8P 町政を問う！  
11議員が一般質問
- 裏表紙 まち 地域のこえ広場

### ●令和5年度一般会計補正予算

## コロナ関連や脱炭素事業などに

1億500万円弱追加し総額111億500万円余に

1億498万円を追加し、歳入歳出総額を111億556万円とするもの。

主な補正

### 2千余世帯を想定 コロナ緊急支援

概要は、エネルギー、食料価格等の物価高騰の負担感が大きい低所得者世帯への負担軽減を図る事業として、住民税非課税世帯等に対する電力、ガス、食料品等価格高騰緊急支援交付金の追加、自己負担のないコロナワクチン予防接種を引き続き実施するための経費を追加。

また、本年4月に当町が環境省から脱炭素先行地域の選定されたことにより、なお一層の推進を図るため脱炭素対策に係る経費の追加。

これらの各種事業の歳入は国庫支出金となっており、収支の調整を財政調整基金繰入金で対応するもの。

可決（全員）

■電力・ガス・食料品等  
価格高騰緊急支援給付金

6300万円

新型コロナウイルス  
感染症による影響やウク  
ライナ情勢を踏まえ、エ  
ネルギー、食料価格等の

# 脱炭素先行地域の採択を受けて

環境省が募集した脱炭素先行地域に、当町が4月28日付で採択されたことによる追加予算。

## 脱炭素カルテ作成 訪問員4名で

■脱炭素カルテ訪問員関連費用 488万円

■会計年度任用職員期末手当（パート） 130万円

■会計年度任用職員費用弁償（パート） 36万円

前記3件は、脱炭素カルテ訪問員として雇用する会計年度任用職員4名の人件費等。

Q 宮地 葉子 議員  
カルテ訪問員4名の作業内容は、

A 宮川 住民課長  
まずは現状把握として、4名体制で半年ほどかけて繰り返しの訪問を予定。

高騰の影響が大きい低所得者世帯への負担軽減を図るため、住民税非課税世帯等に対する電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援交付金を支給するもの。  
支給対象者は、住民税非課税の世帯、及び家計急変の世帯とし、1世帯当たり3万円を支給するもので、2100世帯を想定している。

■予防費 3723万円  
コロナワクチン接種事業において、令和5年度は引き続き自己負担のない予防接種を実施するための特別措置に係る経費。

春夏期7回、秋冬期10回を計画している。内容は、集団接種に従事する医師、看護師等への報償費及びシステム導入経費、接種会場の建物使用料などの事務費を計上している。

## 条例の一部改正

人権擁護委員に推薦しました

## 生ゴミ用パック 訪問時に配布

■消耗品費 538万円  
生ごみ水分削減用パックの購入経費。

その中で、コミュニケーションを取りながら各家庭のエネルギーの使用状況などの確認や、その削減策を考えると共に、住民の行動変容も促したいと考えている。

脱炭素カルテ訪問の際に住民の皆さまに配布し、環境への行動変容を促す効果も見込むもの。

## コロナ5類移行で 減免措置終了に

●国民健康保険条例の一部改正  
新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日以降、感染症法上の5類感染症に位置付けられたことなどを踏まえ、減免措置の終了により改正を行うもの。

可決（全員）

## コロナ関連の 減免規定を削除

●介護保険条例の一部改正  
令和2年より実施の新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少、死亡または重篤な傷病を負った場合の介護保険料の減免の取り扱いが終了により、令和4年度の納期限、保険料減免の要件等を規定する部分を削るもの。

可決（全員）

令和5年9月30日をもって、土居みゆき人権擁護委員が任期満了となる。その後任候補者として浜町幸子氏を推薦するため、議会の意見を求めるもの。

黒潮町 佐賀 513番地3  
浜町 幸子  
賛成（全員）

任期は、共に令和5年10月1日から令和8年9月30日まで。

## 津波避難対策×脱炭素 ＜高知県黒潮町＞

戸別津波避難カルテの経験を活かし、脱炭素カルテを活用して町民の行動変容を図る。「個別避難計画作成モデル事業」（内閣府）を活用して作成された個別避難計画とも連携して福祉避難所等へ再エネを導入し、要配慮者の安全な避難生活を確保。

津波避難対策  
（内閣府）



脱炭素事業  
（環境省）

### 津波避難対策と脱炭素の相乗効果



当町は、施策間連携モデルとして選定された（環境省HPより）

# 委員会のうづき

## 産業 建設 厚生

常任委員会

### 住民税非課税世帯へ3万円の支援金

常任委員会

## 総務 教育

### 国庫支出金の対象に基金繰入金を削減



委員長 高橋 和幸

● 税条例の一部改正  
森林環境税及び、森林環境譲与税に関する法律の施行に伴う整備等。

● 国民健康保険税条例の一部改正  
国民健康保険税の減免措置の終了に伴う改正。

今回、本委員会に付託された5議案は、審査の結果、全て全会一致で可決すべきものとなった。

#### ● 一般会計補正予算

#### 国庫支出金対象に基金繰入金削減を

#### ■ 財政調整基金繰入金

△1329万円

各種経費が国庫支出金の対象となり減額。

う改正と、条項の整理を府令に合わせる改正。

Q この改正で、当町での保育に何か変化は。

A 何も変化はなく、該当施設への影響はない。



今日も元気に！  
(中央保育所)



委員長 浜村 美香

今回、本委員会に付託された3議案は、審査の結果、全て全会一致で可決すべきものとなった。

#### 水産業経営資金

#### 審査委員会

#### 申込なく 廃止へ

● 水産業経営資金審査委員会設置条例の廃止

令和元年度の貸し付けを最後に、その後の申し込みがないこと、他の融資を利用できている現状から、廃止とするもの。

令和5年度一般

● 令和5年度一般会計補正予算

価格高騰緊急支援金3万円支給

■ 扶助費 6300万円

電気、ガス、食料品当

価格高騰支援金として、

住民税非課税世帯と、家

計急変世帯に3万円支給

するもの。2100世帯

を想定。

Q この支援金は国の補助金か。

A 住民税非課税世帯への支援金は国庫補助があり、家計急変世帯への給付は町単独の支援。

付は町単独の支援。

#### ワクチン無料接種年度末まで延長

■ 衛生費 2308万円

コロナワクチン接種事業の医師、看護師、運転手の謝金で、17回を予定。

Q 無料接種の期限は。

A 令和6年3月31日まで延長された。

#### 脱炭素カルテ訪問員による調査実施

■ 脱炭素対策費

1192万円

このうち、618万円を脱炭素カルテ訪問員4名の人件費として計上。

各家庭を訪問し、エネルギーの使用状況や家族構成等調査し、エネルギー削減につなげていく。

Q 活動の周知と人員確保の方法は。

A まず、区長会で周知し、人員確保については町で募集後、ハローワーク等で募集する。施策間連携も推進し、地域の課題解決につながる取り組みとしたい。

〈第1回〉

# 令和5年5月臨時議会

5月9日に開催。専決処分承認(※)4件、一般会計補正予算、監査委員の選任1件が提案され、全件が可決・承認された。

## ●令和5年度一般会計補正予算

### コロナ対応で低所得子育て世帯に支援 1558万円追加し総額110億円余に

1558万円を追加し、総額をそれぞれ110億58万円とするもの。

主な事由は、国のコロナ対策として、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金による追加補正。

可決(全員)

## 低所得者の子育て世帯に生活支援を

給するもの。給付対象として174人を想定している。

## ■子育て世帯生活支援特別給付金 870万円

国のコロナ禍における支援措置の強化策として、食費等の物価高騰に直面し影響を特に受ける低所得者の子育て世帯に対し、その実情を踏まえた生活の支援を行うもので、児童1人あたり一律5万円の特別給付金を支

※：専決処分の承認とは、町長が、議決案件を議会召集の時間的余裕なしを理由に、例外的に議決を経ずに意思を決定し、次の議会にて承認を受けるもの。

## 【専決処分の承認】

### 条例の一部改正

## ●税条例の一部改正

主な内容は、軽自動車税の環境性能割の非課税が、臨時的軽減措置の終了に伴う削除や、種別割のグリーン化特例の軽減適用期限の延長。

## ●国民健康保険税条例の一部改正

主な内容は、課税限度額の改正、及び保険税の減免対象期間の延長。

●半島振興対策実施地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部改正

主な内容は、定義の改正、及び要件期間の延長。

## ●介護保険条例の一部改正

主な内容は、減免措置について、令和5年度の特別調整交付金により財政支援をする予定となったことによる改正。

前記4件は全て

承認(全員)

## 議会選任監査委員を選出しました

## ●監査委員の選任

黒潮町

入野 5196番地70

小松 孝年



任期は、令和5年5月9日から令和9年4月30日まで。

◆ 紹介します

# いつもありがとうございます!

## トライアスロン大会の会場整備を

皆さんが、いつも縁の下で支えてくれているおかげで、トライアスロン大会も成功裏に終わることが…。  
ありがとうございます!



日差しがきつい中、トライアスロン会場周辺の清掃作業中のシルバー人材センターのメンバーたち  
(6月27日、佐賀漁港周辺)



# 常任委員会 新体制でスタート

～各常任委員会の紹介です～

【◎委員長 ○副委員長】

5月臨時会にて、議案審議に先立ち、正・副議長、3常任委員会委員、議会運営委員会委員を選出しました。

任期は、いずれも令和5年5月9日から令和7年5月8日です。

## 産業建設厚生常任委員会

所掌概要:農業振興課、海洋森林課、建設課、まちづくり課、産業推進室、農業委員会、住民課、地域住民課、健康福祉課等に関する事項



宮川徳光 山本久夫 矢野昭三  
○吉尾昌樹 ◎濱村美香 植田佐知

## 総務教育常任委員会

所掌概要:総務課、情報防災課、住民課、地域住民課、出納室、監査委員、選挙管理委員会、教育委員会等に関する事項



山本牧夫 浅野修一 矢野依伸  
○小松孝年 ◎澳本哲也 宮地葉子

## 議会広報常任委員会

所掌概要:「議会だより」の編集・発行



澳本哲也 植田佐知 濱村美香  
○小松孝年 ◎宮川徳光 山本牧夫

これから2年間、  
この体制で頑張ります！  
お気軽に声をかけて下さい。  
(委員一同)

# 町政を問う!!

一般質問とは、町政全般について、フリーテーマで行政側に質問するもので、議員の権利のひとつとなっています。

## 11 議員が質問・提案を

### 学校給食

無償化に取り組む時期では  
国の動向に留意し判断



やまもと ひさお 議員  
山本 久夫

**問** 給食の果たす役割については、教育長、町長

も十分、承知と思う。

教育行政・学校現場では、給食は単に、昼食に留まらず教材として扱われているのが実情だ。

令和4年度の学校給食費は、全体で約3480万円、その内約824万円を公費で負担しており、その額も社会情勢により増加傾向となっている。現在、政府において、少子化対策として、子育て支援について検討され

ているが、町としても給食費の無償化について、取り組む時期ではないか。

**答** 松本町長

教育の課題、子育て支援の課題など町においては様々な問題があり、それらの課題解決に取り組んでいる。

学校給食の無償化については、次期の「第3期黒潮町子ども子育て支援事業計画」を策定する中で議論し、優先すべき子育て支援施策を総合的に判断していきたい。

国の方でも子育て支援施策が、本格的に議論されてきているが、このような国の動向も留意しながら、優先すべき課題の検討を更に進め、しかるべきタイミングで判断していきたい。

### 宅地造成

住民定住への宅地化促進を  
ニーズに応じ検討



佐賀給食センター

**問** 東日本大震災以降、高台移転に関する質問や宅地造成の要望等が繰り返し行われてきた。

高台移転の必要性については、町も十分承知している事と思うが、現在のところ、高台移転に関する有利な補助事業等もなく対応が出来ないのが実情ではないか。

この間に、宅地を求めて町外に転出したり、浸水区域内であっても住宅を建設して町内に留まる若い人達もいる。

近い将来、窪川佐賀道路が完成すれば、高知市内であれば通勤が可能な範囲となる状況が予想されるが、佐賀や拳ノ川等のインターチェンジ付近に宅地の造成が出来ないか。

また、地域によつては町道の新設で宅地化を促進するなど、人口減少の抑制にもつながると考えるが、町の考えを問う。

**答** 松本町長

宅地造成等による住宅地の計画整備については、必要だと認識しているが、浸水区域外での適地が少ないことや、開発費用も多額かつ期間も長期になるなど課題も多く、現状では具体的に取り組みを進めている段階ではない。インターチェンジ付近の宅地造成については、高規格道路整備による発土を活用し宅地化することも可能と考え、「事前復興まちづくり計画」の取り組みで議論されており、今後も協議されていくと考えている。

集落内の浸水区域外の土地に対して、道路の改良や新設により一定規模の宅地化が誘導される状況があれば、一つの有効な施策として考えられる。現在進めている道路整備事業との調整や道路の有効性の検討、農地の活用も視野に入れ、関係部署と連携の上、住民のニーズや意見を聞きながら検討していきたい。

# 避難道調査の結果と対応は 法面や階段舗装などの修繕実施



よし お まさ き  
吉尾 昌樹 議員

**問** 昨年7月の大変暑い日に、町職員や地区の区長、防災組織のメンバーなど、多くの人が集まり避難道の見直しを行ったが、結果はどのようなになっているのか。

また、その結果、修繕などが必要となった避難道への対応について問う。

## 答 村越 情報防災課長

調査を行った避難道229路線のうち、異常なしが204路線。軽度のひび割れ等あるものの、問題ないものが12路線。修繕が必要な避難道が13路線で、これらは本年度予算の対応としている。

主な修繕内容は避難誘導灯のバッテリーや基盤の交換、避難道の法面の修繕、階段や舗装の修理、転落防止柵の修理などとなっている。

修繕を行う基準として、避難所としての機能を損なう損傷や、現在設置している誘導灯の補修等としている。



街灯設置が望まれる避難道

## マイナカード

### 申請手続き 現状は

### 受け取りは来庁必要

## 問 マイナンバーカード

については、6月の国会中継でも質疑が行われていた。苦情やミスが数多く発生しており、個人情報保護の信用問題となっているとのこと。

また、国は、マイナンバーカードに力を入れて交付率を上げようとしているが、全国でも4月の時点で50%に達していないとのことだった。

交付が進まない原因として、「発行手続きが面倒すぎる」「受け取りに窓口へいく必要がある」「紛失した時のリスクが大きい」などがある。

こういった状況の中、当町のカードの交付率はどのようになっているか。

また、申請手続きと、受け取り方法を問う。

## 答 宮川 住民課長

当町のマイナンバーカードの交付率は、令和5年5月末時点で77.8%となっている。また、カードの申請方法は、大きく分けて3種類ある。

まず、窓口での申請。次に、交付申請書での郵送申請。

更に、申請書に記載されているQRコードを使ってパソコンやスマホなどで行うオンライン申請となっている。

オンライン申請については、1カ月ほどの期間を要するが、お知らせハガキと通知カード、本人確認書類を持参の上で来庁していただき、その場で暗証番号の設定を行い、カードを交付する流れとなっている。

## 町独自の支援策を 機は熟す 課題整理し判断



おくとつや 議員  
澳本 哲也

**問** 少子化対策を国も今  
まで以上に支援策を打ち  
出しているが、当町とし  
て独自の支援策を考えて  
いるか問う。

**答** 佐田 健康福祉課長

国は、若年人口の急激  
に減少する2030年代  
に入るまでが、急速な少  
子化、人口減少に歯止め  
をかけることが出来るラ  
ストチャンスと捉え、こ  
れから3年間を集中的に  
取り組む加速化プランの  
期間として、出来る限り  
前倒しをして進めていく。  
具体的な施策として、

児童手当の拡充、出産時  
の経済的負担の軽減、高  
等教育費の負担軽減、個  
人の学び直し、子育て世  
帯に対する住宅支援の強  
化、妊娠から出産までの  
切れ目のない伴走型支援  
保育の質の向上など多岐  
にわたる施策が検討され  
ている。

町として、現在進行中  
である第2期子ども子育  
て支援計画を踏まえ、令  
和6年度に第3期子ども

子育て支援計画を策定す  
ることになっている。本  
年度中に策定される子ど  
も大綱で国の動向を踏ま  
え、子どもや保護者の声  
を反映させた計画をたて  
ていきたいと考えている。  
町が次年度に取り組む  
施策については、今後  
優先順位を含め、検討を  
進めていく。

**問** 15歳までの医療費支  
援を、18歳まで延長でき  
ないか。

また、16歳以上18歳ま  
での医療費は、概算でど  
のくらいか問う。

**答** 佐田 健康福祉課長

子ども未来戦略方針案  
の中で、高等教育の負担  
軽減が取り上げられてお  
り、奨学金制度や授業料  
等の減免、給付型奨学資  
金等が支援策として挙げ  
られている。

理想の子どもの数を持  
てない大きな理由の一つ  
に教育費の負担があり、  
特に高等教育については、  
喫緊の課題とされている。

2024年度中の児童  
手当の拡充について検討  
が進められており、高校  
卒業まで示されている。

町として医療費につい  
ても、これまで実施の検  
討をしてきたが、少子化  
対策の一つの施策として  
も、本年度中に国が策定  
をする子ども大綱の内容  
を確認しながら情報収集  
をし、子育て施策全体と  
して検討を進めたい。

医療費の概算は、小中  
学校の実績から1人当た  
りの医療費を算出すると  
2万1080円となり、  
高校生分として459万  
5千円となる。

**答** 松本町長

近隣の自治体でも実施  
している。財源は別とし  
て、機は熟していると思  
う。子育て支援事業に対  
する課題、全て整理しな  
がらしかるべきとき、  
しっかりとした判断をし  
ていきたい。



4歳、5歳児123名による太鼓教室  
(6月8日 中央保育所)

## 医療問題検討委員会条例は

## 医療計画策定に併せ制定



矢野 昭三 議員

どういうことか問う。

次に、医療、福祉、介護等は住民の声を直接聴くことが必要と考えるが、どのような取り組みをしているか。

また、運転免許返納者、交通弱者等に対する姿勢を問う。

**問** まず、大方町佐賀町合併協議会は、「佐賀町の国民健康保険（直営）診療所及び出張診療所について、現行の通り新町に引き継ぐ」「佐賀町医療問題検討委員会において、長期的地域医療の体系を確立するため、佐賀町医療問題検討委員会を置く」「町の医療体制の確保に関すること、その他町長が必要な事項について調査審議する」と決定しているが、現在の黒潮町にはその条例がない。

**答** 松本町長

まず、拳ノ川診療所に医師を職員として招く事が出来た。医療計画を策定する中で医療問題検討委員会条例を制定したい。次に、専門家等で組織する委員会が意見を募集する手法をとっている。座談会等会場にて発言することは勇気がいる。

全ての方の意見が出るか疑問なので、あったかふれあいセンター事業等の計画に集約して生かす。

交通弱者等については、公共交通等始め、あったかふれあいセンターによる買い物、通院等移動支援サービスを実施している。今後の対策案としてオンライン服薬指導に加え、オンライン診療導入を検討している。患者と診療所医師がオンライン回線で医療行為を行う。自宅に居ながら診療や薬剤の受け取りが可能になる。また、路線バス等これまで以上に移動手段の確保が問題になるため施策を検討する。

## 交通安全対策

### 不破原地区 事故原因は

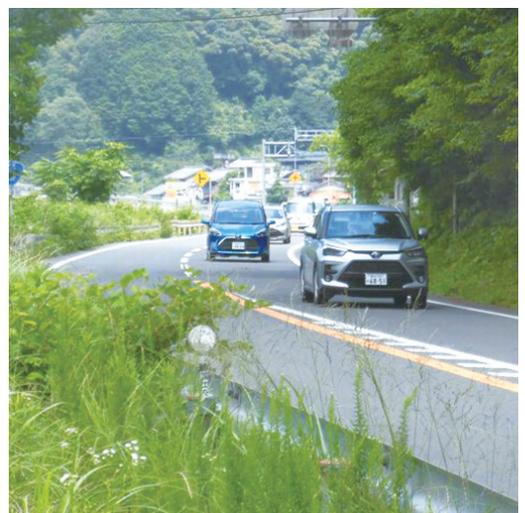
### 運転者の前方不注意

**問** 国道56号不破原地区内において交通事故が多発しているが、原因を問う。

また、事故を回避するため、黄線にするか、上り方面に追い越し車線を作るかを関係機関と検討すべきではないか。

**答** 松本町長

先日の事故原因は、高知市方面への走行車が、



カーブの向こう…“危い”（国道56号不破原地区）



追い越しのため対向車線に出たこと。これにより、四万十市方面へ走行中の車に衝突し、さらに後続の車3台が絡んだ事故となった。負傷者7名、救急車やヘリで搬送されたが、命に別状はなかった。

3時間ほど大渋滞と大混乱となる中、地区住民には大変協力して頂きありがたく思っている。

また、事故は2年で15件と多い状況。その中で、住民が安全に暮らせる道づくりを町として要望する。

この実態を踏まえて、道路の形状変更が良いか。

追い越し車線が良いか  
 交省、警察、公安委員会と協議する。  
 【その他の質問】  
 ・産業振興について  
 ・防災について

# 安全な場所作り 取り組みは 事前復興まちづくり計画で



山本 牧夫 議員

立った所から高台へ移転している。

高台の造成計画は「黒潮町事前復興まちづくり計画」を6年度に仕上げ、財政や補助金を検討し、優先順位をつけて出来る所から前倒しして実施したい。

**問** 黒潮町地域防災計画に基づき、津波の危険を事前に回避するため、公施設や住居等について、計画的に安全な場所へ移転する対策に、どのように取り組んでいるか。

土佐西南大規模公園東地区の高台検討地は、県に対して解除の理由やその後の計画が必要で、事業着手が難しいと思っている。

令和3年4月に佐賀地区区長会から要望のあった、津波被災後に一定期間生活が出来る高台の造成を急ぐべきではないか。

**答** 松本町長

消防屯所、集会所等は、地区合意と用地の目処が

見当たっていない。佐賀地域の現状は理解でき、全体的なあるべき姿を描いたうえで、事業を進めて行きたい。



土佐西南大規模公園東地区の高台地

## 議員定数割れ

# なり手不足への対策は 助成制度導入に取り組む

**問** まちづくりや政治に関心を持って、立候補してもらおう対策が必要。

議員のなり手不足については、地域の人口減や高齢化、過疎化、個人の職業と議員活動のバランス、報酬等の問題があると考えられる。

また、選挙運動の公費負担については、県下23町村の内20町村が3項目を助成しているが、本町はポスター1項目のみの助成となっている。未実施は、大月町、三原村、黒潮町の3町村なのであと1つでもプラス出来ないかを問う。

**答** 土居総務課長

採用していない選挙運動用自動車の使用や選挙運動用ビラ作成について、公営制度に追加採用し、

候補者に援助することは候補者増加に一定の効果があるものと考えており、制度導入に向けて積極的に取り組んでいく。



黒潮町6月定例議会の一コマ

耐震補強 未対策家屋は

現状の未対策3240戸



あさの しゅういち 議員 浅野 修一

耐震工事は、低コストの工事が増えているが、現状、最新の工法はない。

町長は、元情報防災担当課長だったが、耐震補強をどう考えるか。

松本町長

本町における耐震補強で、未対策家屋の件数は。また、耐震補強工事の最新の工法はあるか。

村越情報防災課長

昭和56年5月以前に建築された、いわゆる旧耐震基準の住宅戸数については、4319戸あり、

このうち、令和4年度未までに1079戸の耐震改修工事を、町の補助により実施している。

現状の未対策家屋は3240戸。

松本町長 これまでの本町の取り組みを説明し、現在、進めている事前復興まちづくり対策事業への支援について、国へ提案と要望をした。

大方地域の避難訓練で、津波浸水想定区域内の住民の参加率と対策は。

村越情報防災課長

令和2年度、31.9%、令和4年度は、28.4%と、30%前後では不十分で、今後は、地域全体で訓練参加の呼びかけや訓練内容の充実に努める。



構造用合板による耐震補強工事

働く場づくり

町主導の 取り組みを

可能性検討も 具体策はない

町主導による缶詰製作所などの、安定した収入が得られる二次産業の製造業等の働く場づくりへの取り組みはできないか。

秋森産業推進室長

働く場づくりは、本町で暮らし続けていくためにも必要なことであると考え。一方、会社を興し、運営し持続していくためには、製造するものだけではなく、販路や会社の理念などにも必要であり、会社経営の難しさも缶詰製作所の経営から実感している。

社会情勢や世間のニーズなどにも考慮しながら、今後、職場づくりの可能性について検討していきたいが、現時点では具体策を持ち合わせていない。

防犯対策

町独自の 対応を

町単独での 設置計画ない

防犯カメラなど、県の補助に頼らない、町独自の対応はできないか。

村越情報防災課長

防犯カメラやドライブレコーダーは、事件や事故の解決策として有効であると考えている。

特に防犯カメラは犯罪の抑止効果も期待できると思うが、設置場所により、プライバシーの関係も考慮しなければならず、慎重な検討が必要だ。

ドライブレコーダーは、現在半数近くの公用車に設置。あくまでも職員の安全運転の意識向上と、事故が発生した際の早期解決に向けてのもの。それ以外の目的での映像の利用を想定していない。現時点では、町単独での設置計画はない。

# 新しい公園の在り方を 現状調査し 要望に対応を



はまむら みか 議員  
濱村 美香

**問** 町内には、観光係が管理している児童公園が8公園、地域住民課が管理している2公園がある。その管理の具体的方法と利用の現状は。

**答** 秋森産業推進室長  
公園内の草刈り、清掃、トイレ清掃の管理については町民館や児童館、所在地の地区に委託している。高齢化や人員不足により維持管理が難しい地区については業者に委託し、町で管理している。

また、月1回、役場担当者が町内児童公園の巡回を行い、ゴミの清掃や危険物の点検をし、遊具については年1回専門業者が点検を実施している。利用の状況は、現代の子どもたちは室内で遊ぶことが多くなり、公園を走り回る姿を見ることは少なくなってきた。今後子どもから高齢者まで利用できる公園として維持管理を図りながら、存続や廃止についても検討していく必要がある。



令和5年3月に設置された複合遊具で遊ぶ親子  
(6月25日、人工芝サッカー場西側)

**問** 健康づくりや世代を超えたつながりづくりの場として、公園の在り方も見直されている。  
今後は、「共創」という新しい考え方に立ち、遊具整備や公園のない地区に新設する考えはないか。

**答** 秋森産業推進室長  
今後は、「共創」という新しい考え方に立ち、遊具整備や公園のない地区に新設する考えはないか。

今後は、「共創」という新しい考え方に立ち、遊具整備や公園のない地区に新設する考えはないか。

すでにある公園や廃校になつていく運動場や集会所など既存の施設を有効活用していきたい。

**答** 松本町長  
人工芝サッカー場横にできた公園は町も7%負担している。今後、どのような遊具が必要か、古くなつていくのか等、調査も必要であり、地区から要望があれば、必要に応じて対応していく。

今後は、「共創」という新しい考え方に立ち、遊具整備や公園のない地区に新設する考えはないか。

## ゴミ問題

### 負担金削減し 財源確保に 水切りや分別でゴミ減量を

**問** 幡多クリーンセンターに搬入するゴミの量は人口減に反して年々増え続け、ここ数年の負担金は1億円を超えている。ゴミを減らし、負担金を削減すれば、給食の無償化や18歳までの医療費無償化の財源確保などにつながるのではないか。  
ゴミの減量に対する町の取り組みや見解を問う。

**答** 宮川住民課長  
ごみの削減で負担金は軽減される。町としても今後、生ごみの水分量の削減など、持ち込み量の減量に取り組む。  
また、リサイクル可能なものは分別し、環境配慮、処理の負担金軽減に向け、パンフレット配布や役場ホームページで周知、啓発に努めていく。



ゴミ削減のため古着も無料回収してリサイクルへ  
(竹島 幡多中央環境センター)

## 施設利活用

### 伊与喜・佐賀北部活性化を 地域・所有者と連携協議で

**問** 今年3月に休校になった伊与喜小学校について、伊与喜地域の活性化のための有効活用をどう考えるか。

#### 答 岡本教育次長

施設の利活用については、令和5年度に入ってから協議をすることになっている。

今後、関係する6地区の区長をはじめ、地域のみなさんの意見を聞いていく。



議員 佐知 植田

**問** 地域の住民からは健康づくり教室や調理実習、モーニング等に使用したいとの意見があるが、使用は可能か。

また、自然体験型修学旅行、佐賀温泉との相互利活用、スポーツ合宿等で利用は可能か。

#### 答 岡本教育次長

校舎の利活用については、当面、教育委員会に申請して活用頂きたい。但し、大幅に内部を改装する場合は、6地域の同意を得た上で、廃校の手続き等をして、補助金等を活用しながら進めていくことになる。

その場合、使い方などを相談し、当面、今の形でできるのか、又は、大きく変容して使うのかを打ち合わせしていくこと

になる。地域の住民ニーズに合っているか、中長期的にも望んでいるかを大切に、今後、地域の活性化と住民の望むことを確認しながら検討していく。



伊与喜小学校休校記念式典の様子(3月26日)



**問** 佐賀北部の活性化のための佐賀温泉の有効活用について問う。

#### 答 渡辺企画調整室長

拳ノ川を中心とする佐賀北部地域は、高規格道路の延伸に伴い、人口減少、過疎化が急激に加速し、真っ先に影響を受けると危惧している。

また、佐賀温泉は、避難場所でもあり、休業が続けば、災害時の避難拠点の喪失にもなる。

施設は民間企業の所有物のため、直接的な支援は困難だが、佐賀温泉を核とした地域の維持活性化施策を模索している。

今年度はその調査検討の年と位置づけており、全国の先進事例なども参考にしながら、所有者と連携協力し協議を進める。

#### 問 医療・保健・福祉の拠点としての強みを活かした充実と発展策を問う。

#### 答 渡辺企画調整室長

周辺の拳ノ川診療所、集落活動センター佐賀北部、あつたかふれあいセンターこぶし、高齢者生活福祉センターこぶしなどの強みも活かしつつ、

外部からも人を呼び込み、観光や地域の振興に繋げて行きたい。そのためには、実績のある民間企業のノウハウを取り入れることも必要となる。

## サービス利用

申請方法等を  
分かりやすく  
必要に応じ  
個別支援で対応

**問** 各種サービスについて申請方法が分かりづらいとの住民からの声がある。

近隣の市町村では、他機関等とも連携し、独自のリーフレット等を作成し、配布しているが、当町での対応と工夫について問う。

#### 答 佐田健康福祉課長

デジタル機器の活用を推進しながらも、福祉の本質は個別支援と考え、個人に応じた配慮をしながら制度の説明等にあたっては、

今後も、様々な方法による周知、啓発に努めながら、必要に応じて個別支援にて対応していく。



宮地 葉子 議員

## 子育て支援

### 医療費 18歳まで無料化を 機は熟している

**問** 現在、町の子どもの医療費無料化は中学生までだが、18歳までにすると、財政負担はいくら増えるか。

**答** 佐田健康福祉課長  
財政的には年間500万円弱の増額になる。



学校集団検診の一コマ

**問** どの子ども安心して医療にかかれるように、県下の自治体では18歳までの医療費無料化を次々としている。  
**答** 子育て支援として、町でも踏み切る時期ではないか。

**答** 松本町長

来年度の事業計画協議で子育て戦略について協議し、優先順位など詰めながら、進めていきたい。18歳までの医療費無料化の機は熟していると思っている。

## 防災対策

### 豪雨・土砂災害への備えは 早めの対応で減災に努める

**問** 6月2日の大雨で、町内にも避難指示が出された。避難の状況や被害等を伺う。

**答** 村越情報防災課長

2日、線状降水帯発生情報が発表された。降り続く雨の影響で河川に氾濫の危険が迫ったため、上田の口地区に、その後小川、上川口浦地区へ避難指示を発令した。2名の方が避難した。  
町道等の崩土や農業等の冠水、浸水被害が数箇所あったが、人的被害はなかった。

**問** 温暖化もあり、近年豪雨災害が全国のどこかで毎年発生している。台風シーズン控え、対策等、課題はあるか。

**答** 村越情報防災課長

わずかな気象条件により被害が違ってくる。台風や急激な豪雨等には全職員に周知し、早めの対



増水したしだの川（6月2日）

応を取り、職員全員の力を借り減災に努めている。サロンなど住民の中にも出かけて、土砂災害等の話をさせて頂いている。

## 傷病手当金

申請は  
いつまで  
罹患後  
2年間可能

**問** コロナに罹り、仕事を休むと国保から傷病手当があるが、事業主にはない。しかし、本町は独自で傷病手当金を事業主にも出している。全国で20自治体しか実施していない制度だ。利用者数とかがかった費用はいくらか。  
**答** コロナの支援制度も令和5年5月7日で終わつたが、それまでにコロナに罹った人の傷病手当金の申請はいつまでか。

**答** 宮川住民課長

個人事業主の被保険者へ支給したのは、3年間で17人。支給した額は合計で43万円余りとなっている。  
申請期間は、罹患後2年間は可能なので、まだの方は申請して欲しい。



みやがわ のりみつ  
宮川 徳光 議員

**問** 野良猫への苦情が多いが、現状把握と対策は。また、四十市内には移動車による不妊治療手術を行っている活動がある。

答 犬や猫などについては、動物の愛護及び管理に関する法律で、所有者が適正に飼育管理することとして規定されている。町も、適正な飼育に向け、告知放送や公式ホームページなどで周知啓発を図っている状況。しかし、猫については、放し飼いであることや適切な繁殖防止措置がとられない場合もあり、その中で、繁殖した猫が野良猫化するケースも多い。猫についての現状把握は、登録等の制度がないため、町内の飼育数や野良猫の数などは把握できていない。

対策としては、周知啓発のほか、猫の不適正な飼育の情報が寄せられた場合などは、指導する立場の県と情報共有し、必要に応じて訪問に同行するなどの、連携協力した対応をしている。町としては、今後も動物愛護法に規定の通り、所有者が適正に飼育管理することを原則としながらも、それを後押しする対応をしていく。また、移動車による不妊治療手術については、現状行っていないが、参考にして今後の施策に生かしていきたい。



り、四十市、宿毛市、土佐清水市などが利用しているが、当町の利用状況は。飼い主の没後、お隣さんから餌をもらう猫たち。子猫の姿も見える。(6月25日、奥湊川)

## 野良猫対策

### 移動車で不妊手術 利用は現状ないが今後の施策に

**答** 宮川 住民課長

## 入野松原保全

### 町管理松原 松枯れ状況は対策を変更し被害減少へ

**問** 昨年9月定例会にて一般質問した入野松原の支障木伐採について、今後の予定などを問う。また、町管理の松原の松くい虫被害の状況と対策は。

答 昨年9月定例会にて一般質問した入野松原の支障木伐採について、今後の予定などを問う。また、町管理の松原の松くい虫被害の状況と対策は。

また、専門家の対策検討で、害虫マダラカミキリの羽化が、従来の認識の6月よりも早い4月上旬から5月上旬と確認。これらを受け、地元ラッキョウ部会の皆様の理解と協力のもと、薬剤散布を5月に早めている。これらの対策で、伐倒本数が、令和元年度の2528本から年々減少し、令和4年度は114本となっている。

【その他の質問】  
行政運営について

**答** 今西 海洋森林課長  
支障木伐採については、昨年度、入野松原保全推進協議会の要望を受け、浜の宮地区等にて倒木の一部伐採を実施した。今後の予定は、現時点では国、県からは来てないが、本町を含めた3者が、住環境改善に向けて、これまで以上に現地状況を共有し、同保存推進協議会を通じて要望への対応を引き続き進めたい。また、町管理の入野松原の松喰い虫被害は、平成25年度以降、立ち枯れ



松枯れ薬剤散布の一コマ。近年植え付けた苗木も順調に育っている。(6月23日、町管理の入野松原)

## イメージアップ必要

## 関係団体と連携して

**問** 少子高齢化で人口減少は増すばかりで、そういった中ただその流れに逆らわず手をこまねいているだけでは地方の小さな町は寂れていく一方だ。

防災対策、子育て支援や福祉の充実を単に口にするだけでは前には進まない。そのために具体的に何から始めるべきか考え、まずは町の賑わいとイメージアップが必要であり、その為に交流人口を増やすことを目的としてスポーツツーリズムや

防災施策、移住施策などを町独自で推進したこと

により、多大な経済波及効果と町のイメージアップに繋がってきた。

人が集まる町は自然と

経済が好転し、雇用の場も増え、連ねて一次産業にも好影響を与えユーザー、ターナーも増加し若者が集まってくる町になってくると思う。

そうやってこそ人と人の支え合いのできる町になって高齢者福祉の充実や子どもたちの夢をかなえる子育て環境の確立ができる町になると思う。

以前は他の自治体の前例ばかり気にして、風見鶏のごとく補助金ありきの施策が多くて魅力の感じられない町だったが、今はスポーツ施設や防災、その他特色を生かした独

自の施策を打ち出しているからこそ、この町が他から見て元気な街に見えるイメージアップに繋がって移住希望も増え、子どもたちもこの自然を魅力に感じて自分の故郷に誇りを持てるようになってきているのではないかと思う。

この提言を忘れず、これからの町の活性化に繋がってほしいと思うが、どう考えるか。

**答** 松本町長

スポーツツーリズムは特に目標としてきた1万5千泊にほぼ近寄った。コロナ禍の中で近寄ったということは本当にすごいことだ。

移住促進においては社会増減が、平成30年以降の4年ぶりの15人の社会増、これは私が町長になってこんなうれしい事はないぐらいの情報だ。そういった成果が一つ一つ形としてできてきたということは、本当にこのまちづくりにとって大

事なことだと思っている。こんなことをやろう、こんなことしたらいいねという意見もたくさんあるが、やはりそのことを形にして、実行していきそして実績を出す。

「空想（もうそう）をカタチにするまち」という言葉で、私が皆さんと一緒に作っていききたいわけだが、そういう形にするということは非常に説得力が出てくるので、今後町政を進める上で様々な課題を解決するときに一つ一つを形にする、突破力というものを職員にもつけていきたいと思っている。

またもう一つここで述べておきたいのは、そういうことを推進するにあたって、行政だけではできないことを、例えばスポーツ合宿であれば、NPO 砂美術館や観光ネットワークの人達が、最先端の現場で対応してきてくれていて、合宿に来る、様々な監督、コーチと話した時に、スポー

ツ施設に関していうと、この町の施設はけっこう抜き出していないが、ここに関わってくれる人たちがスポーツのことを理解して対応してくれている。こういう所は少ないと評価して頂いている。

そういった関係団体組織との連携を大事にしながら、今後もまちづくりを進めて、いろいろな課題を形にしていかなければならないと思っている。



新潟アルビレックスの歓迎式典(3月11日、大方球場)

こまつ たかとし  
小松 孝年 議員

# 高台への消防屯所移転・避難集会所新築進む！

～消防屯所7カ所目、避難集会所4カ所目が合築で完成～

○ 避難集会所    ○ 消防屯所

① 田野浦避難集会所 (平成29年3月)



② 浮津避難集会所 (令和2年3月)



出口 ③ 避難集会所

(合築) ⑤ 消防屯所 (令和3年3月)



早咲 ④ 避難集会所

(合築) ⑦ 消防屯所 (令和5年3月)



町内6カ所目の消防屯所高台移転として、上川口消防屯所が王無団地東側に。また、7カ所目の消防屯所高台移転と4カ所目の避難集会所となる早咲地区避難集会所・消防屯所が、当地区山側の高台に合築にて、それぞれ令和5年3月に新築落成となりました。これらにより、町内の津波被災後の救援活動や、一次避難時のより一層の充実が図られます。

④ 入野消防屯所 (左端、令和3年3月)



① 田野浦消防屯所 (平成28年4月)



② 鞭消防屯所 (令和2年3月)



③ 田の口消防屯所 (令和2年3月)



⑥ 上川口消防屯所 (令和5年3月)



右側片屋根部が消防屯所。中央部が共用部分。左側が避難集会所



早咲避難集会所・消防屯所新築落成式典のお餅投げの一幕



令和5年6月18日、早咲避難集会所・消防屯所の新築落成を記念して、神事や祝賀行事が執り行われました。

# まち地域のこえ広場

No.1

町への思い、地域への思い、議会への思いを届けます。

## 助けられたり助けたり・・・「お互いさまのまち」に



境 智恵美さん  
(68歳)  
明神在住

私たちが小さい頃は、近所にもらい風呂、テレビがある家に集まり、みんな鑑賞。そこには必然的に近所の助け合いの心が生まれていました。

2011年の東日本大震災の後、当時93歳の岩手県のおばあちゃんがテレビに映り、「私は100歳まで頑張ります。応援して下さい」と訴えていました。居ても立ってもいられなくなり、自分に何かできることはないか、そのおばあちゃんに会いに岩手まで行きました。その時の出会いは今でも宝物となっています。人との出会いが一番大切であり、出会いは自分の磨いてくれるもの。

今私は、スナックを経営しながらも93歳の実母(要介護4)を介護しています。やればできる!と自身を元気づけるためにも、日々声も元気に頑張っています。

昔のように、地域で、ご近所で、助けられたり、助けたり、自分にできることを精一杯やりながら、黒潮町を明るい町にしていきたいです!

## 大人と子どもの距離が近い子育てしやすい黒潮町

30歳手前まで神奈川県で介護の仕事をする中、年を重ねても食べる事って一番の楽しみなんだなあと思つた時から農業を意識しました。その後、黒潮町の篤農家さんと知り合ったこと、サーフィンをしていたこともあり、黒潮町へ移住を。その篤農家さんの所で2年半の研修を受け、その間にさち子さんと出会い1年間の遠距離恋愛を経て、結婚をして就農しました。披露宴は「であいの里蜷川」で行い、地域の方々に盛大に祝ってもらいました。

現在は、イチゴ、グリーンレモン、サツマイモを栽培して農業も3年目を迎えました。

しかし、移住農業は減価償却費が高い状態から始まり、固定費も高いのでなかなか大変です。薄利多売ではなく厚利少売で農業経営するのが夢です(笑)

移住者としての提案は、お試しでトレーラーハウスなどを活用すれば空家よりも手軽に生活出来るのではないかと思います。移動出来るので災害時にも便利。

黒潮町は子育てしやすく、地域の活動を通して大人と子どもの距離も近く感じます。

子どもたちが育っても黒潮町を意識してもらいたい、田舎ビジネスを皆んなで考えていければいいなあと思っています。



杉本 憲司さん(45歳)  
さち子さん(41歳)  
ご夫妻、蜷川在住

### 編集後記

今年5月、黒潮町議会も定数割れで一名欠員という中で新たなスタートを切りました。

議員のなり手不足は全国的な課題となっており、これは単に報酬や定数の問題だけではなく、議員としての立場において、様々な要因があるのも確かです。

私たち黒潮町議会もこの問題をしっかりと分析し、議会の重要性や必要性、そして議員が置かれた立場をさらに発信していかなければならないと思っております。

そして、黒潮町の将来のために、住民の皆さんにも十分な理解と関心を持って頂きますようよろしくお願ひします。

(小松孝年)

### 議会広報常任委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 委員長  | 宮川 徳光 |
| 副委員長 | 小松 孝年 |
| 委員   | 植田 佐知 |
| 同    | 澳本 哲也 |
| 同    | 濱村 美香 |
| 同    | 山本 牧夫 |

黒潮町 議会だより・議事録は、黒潮町ホームページよりご覧になれます。

<http://www.town.kuroshio.lg.jp/> → 黒潮町の紹介 → 議会 → 議会だより → バックナンバー

■発行人 高知県黒潮町議会  
■編集 黒潮町議会広報常任委員会  
■住所 高知県幡多郡黒潮町入野 5893 TEL.(0880)43-2111(代)・(0880)43-2831(直)

■発行日 令和5年8月1日